

2020年度 安全計画

2020年4月1日
しなの鉄道株式会社

2020年度 目標

「お客さま、社員、協力会社社員の死傷事故 0」
「運転事故、インシデント 0」

項目	目標	項目	目標
お客さま、社員、協力会社社員の死亡事故	0件	運 列車事故（衝突・脱線等）	0件
		転 人身障害事故	0件
		事 踏切障害事故	0件
お客さま、社員、協力会社社員の傷害事故	0件	故 鉄道物損事故	0件
		インシデント	0件

安全方針及び安全に係る行動規範

安全方針

1. 私たちは、安全は事業の根幹であるとの信念のもと、お客さまの安全を最優先します。
2. 私たちは、安全に関する法令及び規程を遵守し、全社員一丸となって安全の確保に取り組めます。
3. 私たちは、PDCAを確実に実施し、継続的な改善見直しを行ない、常に安全性の向上に努めます。
4. 私たちは、安全で安定した輸送を変わらぬ使命とし、お客さまに信頼され、地域に愛されるしなの鉄道を目指して挑戦します。

安全に係る行動規範

1. 一致協力して輸送の安全の確保に努める
2. 輸送の安全に関する法令及び関連する規程をよく理解するとともにこれを遵守し、厳正、忠実に職務を遂行する
3. 常に輸送の安全に関する状況を把握し、理解するよう努める
4. 職務の遂行に当たり、推測に頼らず確認の励行に努め、疑義のある時は最も安全と思われる取扱いを行う
5. 事故・災害等が発生した時は、人命救助を最優先に行動し、速やかに安全適切な処置をとる
6. 情報は漏れなく、迅速、正確に伝達し、透明性を確保する
7. 常に問題意識を持ち、改革に果敢に挑戦する

1. 安全マネジメント体制の充実・強化

全社員が安全方針を理解し、安全確保のために「自ら考え、自ら行動する風土」を創りあげていきます。

経営トップ、役員及び各安全管理者※は「三現主義」に徹し、本社・現場間のコミュニケーションを深め、現場社員、協力会社社員と一体となって、安全のPDCA(継続的な改善見直し)を確実に実施して安全の確保に取り組みます。

《具体的取り組み》

- (1) 全社員説明会、現場巡回、職場内教育等で、安全方針の意味(安全最優先の原則・規程の順守・継続的改善)の理解度と実行力の向上を図ります。
- (2) 役員による現場安全総点検及び各安全管理者※による現場巡回を実施します。
- (3) 新車の営業運転開始は、大きな変化点管理として取組みます。
- (4) マネジメントレビュー、安全内部監査で安全マネジメントが有効に機能しているかを確認します。
- (5) 安全推進委員会で、安全重点施策の策定、進捗状況の把握と改善を実施します。
- (6) 職場管理者に対して「運輸安全マネジメント制度」についての教育を継続します。
- (7) 協力会社も参加した安全大会を開催します。
- (8) 好事例の表彰および社内への水平展開を図ります。

※各安全管理者とは、弊社安全管理規程に定められた、安全統括管理者、運転管理者、乗務員指導管理者、施設管理者、車両管理者、経営管理者を言います。

2. 安全を理解し、安全に対する感性を磨く

事故の悲惨さ、事故の恐ろしさを自分の事として学び、安全の重要性を理解し、安全の確保のための具体的な行動につなげ、安全に対する感性を磨いていきます。

事故を未然に防ぐための危険を予知する「気づく力」、そして予知した危険を取り除くための「考える力」を醸成していきます。

安全は命を守ること。安定は列車を正確に運行させること。鉄道にとってはどちらも重要なことですが、安定を重視するあまり安全が疎かになり、人命が脅かされることになりかねません。安全確保のために「危ないと感じたら列車を止める」をすべての社員に徹底します。

《具体的取り組み》

- (1) 安全推進委員会、安全大会、訓練会、勉強会等で、過去の事故(坂城事故)、他山の石等の資料やビデオ教材を活用し、「事故の悲惨さ、恐ろしさ」を自分の事として考えられるよう展開します。
- (2) 「現地を見る、体験する、イメージして考える。」の取り組みを実施すると共に、自職場の訓練や取り組みだけでなく、他職場の取り組みや訓練を見学・体験することにより、予兆感性、

危険予知能力を磨き未然事故防止に努めます。また参加社員は自職場の社員に伝える役割があるため、社員が自分の言葉で周りの社員に伝える取り組みを行います。

- (3) ヒヤリ・ハットを継続して学び、事故発生の可能性と、事故が発生した場合の重大な影響を考え、事故によるリスクの低減措置を講じるとともに、事前に気付き、危険を回避した事象についても水平展開し、安全に関する感性を磨きます。
- (4) 自箇所潜む危険を洗い出し、ひとつひとつ危険を取り除いていきます。
- (5) 列車を止める手段、止めるべき状況等の教育を過去の事象等を活用し実施します。また、些細なことでも速やかで正しい報告ができる文化を醸成します。

3. 部内原因による事故・事象の撲滅と外的要因によるリスクの低減

当社及び協力会社の原因(部内原因)による事故・事象及び繰り返し発生している事故・事象は、徹底的に原因を究明し、有効な対策を立て、確実に実行するとともに、一定時間が経過後その有効性を確認します。また設備、教育・訓練、ルールの見直し等あらゆる手段を活用しながら撲滅します。

ちょっとした気の緩み、慢心によるルール違反等が重大事故につながり人命を脅かすこととなります。「ルールの成り立ち」を学び「ルールを守る」ことの重要性の理解と確実な実行を徹底します。

昨年の台風19号から得た教訓を忘れず豪雨、大雪等の自然災害等(外的要因)に対し、初動から復旧までの体制整備や倒木、落石、落雪、土砂崩壊等の危険個所の把握と対策によりリスクを低減させます。

《具体的取り組み》

- (1) 助役・係長などに、ヒューマンエラーの原因究明のための調査や分析法の教育を実施します。
- (2) 安全推進委員会で、出席者全員で議論し徹底的な原因究明と再発防止策及び未然防止策を策定するとともに、一定時間経過後の事故当事者のフォローの状況及び対策の有効性を確認します。
- (3) 役員、各安全管理者、現場管理者が作業実態とルールの乖離を確認し、乖離があった場合は、その乖離を見直します。また、全社員が法令や規定に基づく業務を行っているか相互診断を行い、コンプライアンス意識の向上に努めます。
- (4) ルールや作業手順等の「成り立ち、本質(なぜ、そうになっているのか、なぜ、行うのか)」を理解させる教育を実施します。
- (5) 「安全ABC※キャンペーン」を実施し、ルールの厳守を徹底します。
- (6) 机上による教育・訓練だけでなく、JR長野総合訓練センターでの運転シミュレータを使用する乗務員訓練、駅に設置されている補助制御盤使用しての駅社員訓練、保守用車や架線などを用いた技術社員の訓練、全システムによる現車を使用した、各現場が必要な訓練を、自主性を持って実施します。
- (7) 現場社員からの現場状況報告、気象情報会社等からの自然災害情報等の積極的な収集と正確な状況把握を行い、関係箇所と連携及び情報共有を行い、迅速かつ適切に対応し、外的要因によるリスクを低減します。

- (8) 設備等の計画的な点検・整備・処置を行います。
- (9) 県、市町村、警察、消防、JR等と連携した各種訓練や協力体制を通じて異常時対応能力を養います。
- (10) 迅速な対策本部設立、安否確認、緊急招集、情報収集と共有など自然災害等（外部要因）に対する全社的なリスク管理能力を高めます。
- (11) 異常時における列車の遅れ等の運行状況は、報道機関、沿線自治体、学校等関係機関と連携し、メール配信システム等により的確、迅速かつタイムリーな情報を提供します。

※安全のABCとは、A=当たり前のことを、B=ばかにしないで、C=ちゃんとやるの意味。

4. 計画的な施設・設備の維持更新

経年による設備の劣化、老朽化に対処するため検査修繕を計画的かつ確実に継続実施していきます。また、将来の老朽化に備え、中長期的な設備整備計画と安全性を維持した設備のスリム化計画の策定を行い、実効性の高い設備の維持、更新体制を構築し計画の推進を図ります。

《具体的取り組み》

国、県、沿線自治体などのみなさまなどのご支援をいただきながら、計画的な車両更新を進めます。

《安全設備整備計画》

(1) 設備投資 (単位：百万円)

総 額	内 訳	
	設備関係	車両関係
2, 5 4 3	7 9 9	1, 7 4 4

主な件名

《線路・電気》

- ・レール交換・木マクラギのPCマクラギ化 << 1 1 9 >>
- ・変電所機器更新等 << 5 >>

《車両》

- ・車両更新 << 1, 7 4 4 >>
- ・車両用モーター絶縁更新 << 3 5 >>
- ・補助電源装置内部機器更新 << 7 >>

(2) 検査修繕 (単位：百万円)

総 額	内 訳	
	設備関係	車両関係
8 5 0	5 1 4	3 3 6

- ・線 路・・・線路及び土木構造物（橋梁等）の検査修繕
- ・電 気・・・電力及び信号通信設備の検査修繕
- ・車 両・・・各種検査（全般検査、重要部検査等）修繕